



MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2016年1月号 謹賀新年



発行人：濱塚有史 編集人：君塚彩 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>



「新年挨拶」

石渡 隆司（盛岡YMCA理事長）

盛岡YMCAに連なる皆様 皆様が良いクリスマスと新年を迎えられたことと存じ、心からの祝意を申し上げます。

旧年の盛岡YMCAは、開設以来の多くの支援者・関係者の様々なご後援を背景に、被災地支援を含め、本来の青少年の健全育成に向けて活発な活動を展開することができていることを皆様への感謝と共にご報告出来ることを理事長として大変嬉しく存じています。

盛岡YMCAが三十年の歴史を経てきたことは、社会的信用の上でも、また若い職員のミッションの自覚を深めるうえでも、大きな力になっていると思われます。さらに、ワイズメンズクラブの後援活動が、理事会常議員会の審議を、より社会的・具体的な内容にするうえで、また職員のミッションの自覚を深めるうえでも大きな役割を果たしてくれています。

今回は、昨年中の理事会等での話題で特に記憶に残るものとしては、次のものがあります。

国際的な面では、対立・混乱する中東の、とくにシリアの難民の問題に対して、日本も一定の条件付であっても相応の受け入れ

をすべきではないか。隣人とは誰かというキリスト教の提示する主要な問題の一つで、YMCAもできる範囲で真剣に考えなければならない課題であろう、ということが話題となりました。

地域的な問題としては、盛岡の隣町の矢幅町で起こった、「いじめ」を原因とする中学生の自殺問題。青少年の健全育成をミッションとする、わがYMCAとして、何らかの予防的な対策の検討が必要ではないか、という問題。

三番目には、盛岡YMCA自体の、若手職員並びに大学生のリーダーの現況についてでありました。この件に関しては、どちらも極めて目覚ましい人間的な成長が認められ、改めて、盛岡YMCAの基本精神、総主事以下の幹部職員の指導力に高い評価をする声が多かったことを嬉しい報告としてお伝えし、理事会から見た昨年の盛岡YMCAの報告といたします。

新年の皆様の一層のご健勝・ご活躍を祈り上げます。



☆12/13 ファミリークリスマス☆

12月13日(日)、仁王地区活動センターにて「ファミリークリスマス」が行われました。

いつものYMCAの活動は、子ども達のみの参加ですが、今回はご家族と一緒に参加していただき、ご家族一緒に「全てが手作りのクリスマス」を楽しんでいただくというコンセプトで開催し、プレゼント交換や、飲食をするパーティ形式ではなく、お家に飾れるオリジナルのクリスマスグッズをリーダーと一緒に、そして家族一緒に作って持ち帰れる「クラフトブース」を6つ用意するという、斬新な形式をとってみました。



「写真立て」「ぬりえ」「スノードーム」「クリスマスカード」「オーナメント」「リース」の6つのブースは、当初の心配をよそに、全てのブースが大盛況となりました。おとなも子どもも、みんな夢中になって工作に励む姿があらここで見られ、物を作ってる人たちの目は、老若男女問わず輝いており、時間が経つことすら忘れられている空間になっていたのではないかと感じました。

クラフトブースの部屋の隣には体育館。その体育館に歌声が響いています。リーダー達と、参加している 家族の方々が楽しそうにクリスマスソングを歌っています。その楽しそうな歌声を聞いたご家族も参加し始め、体育館がクリスマス一色となってきました。歌と踊りを家族やリーダーで楽しんでいると、突然、サンタと2足歩行のトナカイがやってきて、みんなビックリ!!そして、びっくりついでのインタビュー大会(!?)が始まり、全員大爆笑!!最後にサンタコースから素敵なプレゼントをもらい、短くも楽しい時間は過ぎてしまいました。



今回は第1回目という事もあり、スタッフもリーダーも試行錯誤しながら、準備をしてきました。その試行錯誤は前日夜遅くまで続き、体力的にも危うい感じがありましたが、そこは、いくつもの困難を乗り越えてきたYMCAのリーダー達。来てくれた子ども達や家族のために、自分達が

思いっきり楽しんでいただこうと思えます。

後日、あるお母様から、「久しぶりに子どもと踊って楽しかったです。筋肉痛になりましたが。。。このような時間をいただきありがとうございます。」とメールをいただき、本当に嬉しかったです。

違う輝きが放たれた2つの空間。来年もまた違う輝きが見られるように、大事にしていきたいプログラムだと感じました。

東森 聡 (盛岡YMCAスタッフ)



↑ 小さな子どもたちも参加してくれました!小学生たちの、ちよっぴりお兄さん・お姉さんになった顔も見られました。



↑ 突然のサンタ登場、そして突然のインタビュー大会!大いに盛り上がりました。



参加してくれたみんなに、サブライズプレゼント!リーダーたちからの、オリジナルのクリスマスグッズです。←



ステップⅡ研修のご報告

盛岡YMCAスタッフの小川です。研修の報告をさせていただく前に、今回多くの方の支えがあってはじめて私が、ステップⅡ研修に行けたこと、そして修了することができ盛岡に帰ってこられたことを深く感謝申し上げます。



今回私が行ってきた日本YMCA同盟ステップⅡ研修は、『YMCA運動の担い手としての自覚と連帯の形成。業務管理・計算能力の養成。対外的な関係形成能力の養成。』を目的とし、全国10のYMCA(横浜、東京、大阪、神戸、熊本、広島、栃木、福岡、在日本韓国、盛岡)から14名の研修生が集まり、9月15日から11月28日までの75日間、静岡県にある日本YMCA同盟東山荘を主な研修所として行われました。

その内容としては、10月末までは、座学をメインとし多くの講師の方々から、上記の目的に沿った様々なジャンルのものを学ぶ期間となりました。11月からの約一カ月は自らでテーマを決め、修了論文を書き上げる期間といったものでした。

今回の研修を経て、私が強く感じた事は大きく2つあります。それは「感謝」そして「祈る」という事です。冒頭でも触れましたが、今回の研修では仲間として支えてくれた13人の仲間はもちろん、研修日のご飯を用意してくれた方々、周りの環境を整えてくれた方々、忙しい中研修生のために講義をしてくださった講師の方々、そして何よりも75日間という研修を私が過ごすために、盛岡で現場・環境を支え守ってくれた方々がいて初めて自分が研修という時間を過ごせるという事、自分が生かされているという事をとても強く感じました。

また、私自身今まで祈るという行為を行ってきませんでした。研修期間中は、毎日、研修生で礼拝を行いました、その様な経験も私にとっては本当に初めてでした。



私は、非常に多くの支えの中で研修を行ってきました。その中で、私の強い支えになってくれた方が、大きな悩みを背負いながら参加している事が分かりました。私では到底受け止めきれないほどの悩みでありましたが、自分にできることはないかと色々試みました。ですが、その方の苦しみは大きくなっていく一方に見えました。自分を強く支えてくれている

人に対して、自分は何もできない、そんな自分がひどく小さくみえました。そんな時気付くと、私は日々その方のために祈っていました。自分には祈ることしかできないが、祈ることができる、と言いつつも日々祈りました。今までの自分の人生ではなかった行為だけに自分でも驚いていました。研修は終わりましたが、今後も祈ることをやめずに日々続けていきます。

今回の研修を経て、研修での学び、経験を今後の自分に継続し、それをこの盛岡の地で、地域・家族・子どものためにどのような行動を起こしていけるのかが、今後の自分に課せられた使命だと感じています。

最後になりますが、今回の様な貴重な経験と学びの時間を頂き、そしてそれを支えてくださったすべての方々に感謝を申し上げ、終わりとさせていただきます。本当に有難うございました。

小川 嘉文 (盛岡YMCAスタッフ)

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 12月報告書

①12月アドベンチャー「クリスマスリースづくり」開催！



12月6日、山田町の「陸中海岸青少年の家」にて、12月のアドベンチャークラブの活動が行われました。今回参加してくれたのは、13名の小学生たちと、4名の宮古の高校生リーダー、盛岡からの5名の大学生リーダー。そして、いつもお世話になっている、三浦さんもご参加くださいました。

今回のテーマは、「クリスマスリースと焼き芋作り」。まず、水で濡らした新聞紙とアルミホイルにお芋を包みます。そして、グループごとに火おこし。お芋が焼けるまで、子どもたちとリーダーたちはグループごとに分かれ、館内でクリスマスリース作りを行いました。その間、三浦さんが4つのかまどの火の管理をして、おいしいホカホカの焼き芋に仕上げてくださいました。出来上がった焼き芋をほおばる子どもたちからは、「おいしい！」の声が飛び交いました。

最後は、みんなで作ったクリスマスリースを手に記念撮影！子どもたち、リーダーたち、そして三浦さんで過ごした時間は、とても楽しいものとなりました。



↑ リース作りの間、火の管理をしてくださった三浦さん！



↑ 出来上がったリースを持ち、記念撮影！

②嬉しい再会



上の写真が、再会した中学生たちです。みんな大きくなりました！

先述のアドベンチャークラブ活動の後、嬉しい再会がありました！

宮古市内のマクドナルドにて反省会をしていたところ、小学生の頃スキーキャンプに参加していた中学生がやってきて、声をかけてくれたのです。歴代のディレクターやリーダーのことも覚えてくれていました。

③宮古サッカースクール、II期終了！



12月で宮古サッカースクールのII期が終了し、少しの間冬休みとなります。サッカースクールの活動を支えてくれた大学生リーダーたちから、II期終了によせてのコメントが届いています。

こんにちは！盛岡YMCAのジョアです。雪はなかなか降りませんが、寒さが厳しくなってきました。

そんな中、今期も宮古サッカースクールの子どもたちは、寒さに負けずパワーにあふれていました！元気モリモリです！練習したことを活かし新しいことに挑戦している姿からは、いつも元気をもらっています。

次回のサッカースクールは、冬休み明けになります。雪のあるグラウンドと一緒にサッカーをするのが、今から楽しみです！

伊藤 徳南（岩手県立大学1年・ジョアリーダー）

2015年の宮古サッカースクールも12月15日で最後を迎えました。私“さとちゃん”ことGパンは5月12日から宮古サッカーに参加させてもらいました。そこで毎週毎週元気な宮古の子どもたちとサッカーをして、笑顔の絶えない素敵な時間をみんなと創り上げることが出来たように思います。

その5月から12月までの中で特に印象強く残っているのが、11月3日に行われた第4回盛岡YMCAチャンピオンズカップです。盛岡の7つのサッカースクールと戦い、普段のスクールでは状況的になかなか難しい、知らない相手との試合で、サッカーをする喜び・楽しさ・悔しさなど沢山感じる事ができ、宮古チームの中から大会MVPを受賞するメンバーもいました。1年生や2年生など低学年が多い中、みんなで一步一步確実に積み上げ、サッカーを楽しめる時間もドンドン増えてきました！

2016年も一人一人を大切に、笑顔と元気はどこにも負けない素敵なサッカースクールにしていきたいと思います！

向平 悟（盛岡大学4年・Gパンリーダー/さとちゃんリーダー）



↑ 練習の前には、みんなで輪になって体操をします。



↑ 練習中に、おなじみの「五郎丸ポーズ」！

④「宮古少年・少女スキーキャンプ」に向けて



12月23日、宮古少年・少女スキーキャンプ（1月5日～7日）のリーダーミーティングが行われました。今回はプログラムディレクターが武田悠（たけだはるか：ゴリナリーダー）マネジメントディレクターが家村知佳（いえむらはるか：シロクマリーダー）ダブルハルカの体制で臨みます。

ちなみに、キャンプ長は、濱塚（はまちゃん）。大学生ボランティアは6名、宮古の高校生ボランティアは13名。子どもたちは40名参加します。

白銀の安比高原で、有意義で楽しい2泊3日が過ごせるよう、みんな張り切っています。

美味しくいただきました。

フルーツポンチをいただいた後は、お待ちかね、プレゼント交換！最初にボール送りゲームをし、そのゲームの勝者から順番にくじを引きました。くじに書かれていた相手のプレゼントを受け取る、子どもたちの楽しげな声がこだましていました。

クリスマス会の後は、もらったプレゼントをさっそく開け、お菓子が入っていた人はみんなで食べたり、おもちゃだった人はさっそく遊んだり、思い思いに過ごしていました。楽しいクリスマス会となりました！

中村 圭一（ぶらいむ・たいむ本町校職員・ソニックリーダー）

Merry Christmas

12月25日は、待ちに待ったクリスマス。ぶらいむ・たいむ本町校では、クリスマス会を行いました。

まずは、フルーツポンチをみんなで作りしました。フルーツを切ったり、白玉をこねたり、一生懸命がんばっていました。それらができあがったら、ボウルの中心にサイダーをペットボトルごと置き、メントスをペットボトルの中にイン！すると、あら不思議。ペットボトルからたくさん泡が噴き出し、子どもたちは大喜び！噴き出したサイダーに白玉とフルーツを入れると、美味しいフルーツポンチの出来上がり！みんなで



